

暁烏文庫の由来

第60回暁烏記念式・記念講演会
附属図書館長・柴田正良
平成21年4月23日



暁烏文庫の設立(1)

- 昭和25年4月29日、暁烏敏(あけがらす はや)師から、本学の創設に当たり、蔵書約5万冊の寄贈を受ける。
- 以来、当時の戸田正三学長の提案により、4月29日を暁烏記念日と定め、記念式と記念講演を行っている。



暁烏文庫の設立(2)

記念講演会

第1回講師：武者小路実、西谷啓治、他

.....

第4回講師：暁烏敏「法の精神」

.....

第17回講師：橋本芳契「仏教近代化における
暁烏敏の功績」

.....

第59回講師：D.K.アンドリュース「アメリカ人の
見た日本の宗教」



暁烏文庫の設立(3)

記念論文募集

昭和36年、暁烏師未亡人、総(ふさ)氏より、論文表彰基金として、本学に百万円の寄付。

利息の充当により論文募集を開始したが、諸般の事情により昭和60年頃に募集を中止。



暁烏敏という宗教家(1)

- 真宗大谷派の僧侶。松任市北安田町に生まれる。明治10年(1877)～昭和29年(1954)。明達寺(みょうたつじ)第18世住職。
- 東京本郷の清沢満之(まんし)の影響下で、仏教語を用いない仏教雑誌『精神界』を発刊し、明治後期の宗教思想界に大きな影響を与えた。



暁烏敏という宗教家(2)

- 大正初期に経験した性の懊悩に起因する精神的挫折の後に、教団宗派にとられない自由闊達な思想を民衆に説くべく、全国をくまなく講演旅行をする。
- 昭和24年、インド、ヨーロッパ旅行を果たして以来、アメリカ、ハワ、中国などを歴訪する。大旅行家にして、大蒐集家。

(参考: 松田章一『石川県大百科事典』1975)



暁烏敏の言葉(1)

■ 私は学問のために書物をよせたというよりも、何かしら書物がすきで書物を買集めたという方がよいようです。中学の二、三年のころから書物を買うことにうき身をやつしてきたものです。

■ 京都の学生時代には洋服は巡査のお古を買って着たり、間借りをして、一日四合の米でしっそな自炊をして書物を買いためた。洋行中にも、ホテルの夕飯は



暁烏敏の言葉(2)

- たいていミルクホールで間に合わせて好きな本を買い集めたものです。それがいつのまにか四、五万冊くらいになっているようです。
- 仏教の学問が中心となっているだけ、仏書は全体の三分の一をしめております。(略)それから明治以後の哲学書や文学書も相当集めました。西洋の書物では、ギリシアに関するものをはじめ、近代の



暁烏敏の言葉(3)

■ ドイツ・フランス・ロシア・イギリス・アメリカなどの哲学や文芸の書物は原書と訳書で一通りはそろっています。(略)西洋の旅行中は美術書や考古学の文献など多く集めてきました。

■ 書物を集めてみると、この集まった書物を誰かに利用してもらいたい気が一杯になっています。

「香草文庫を師範学校に寄贈するについて」 1947



暁烏敏の言葉(4)

「大日本文教研究院設立趣意書」1935

- …私の今度発願した文教院は官立のものではない、ささやかな、そして考え方によっては偉大な神佛の御意によって設立される教院である。…
- 文教院は、その名前は大層らしいが、普通の意味の学校でもなく、普通の意味の研究所でもなく、普通の意味の修道院でもない…



暁烏敏の言葉(5)

- …大体が官立嫌いな私としては、何らの権威の加わらない純粹な薫育徳化の道場がほしいのである。
- そこで円壙形の三階建てとし、第一階の中央を閲覧室として、一・二・三階共周囲を蔵書室兼特種研究室としたらといふやうに話がまとまった。そこで、私は、その大きさを直径八間にしてほしいと思ひ立った。



最後に(島には希な巨人)

- 「島の法則」(本川達雄『ゾウの時間 ネズミの時間』)によれば、大陸と違って、日本のような島国にはふつう小粒の平均的な人物・思想家しか育たない。
- しかし、北陸のこの小さな町になぜ暁烏師のような巨人が育ったのだろうか。思想、詩歌、絵画、陶器、そしてあくなき蒐集欲と焼けるような旅行熱。適度を知らない子供の心…恐るべき素直さ。

